

尾道学資料 : 画家『小林和作』の写真資料

荒木, 正見

総合文化学会 : 哲学・倫理学・心理学・医療コミュニケーション

<https://doi.org/10.15017/2552928>

出版情報 : 総合文化学論輯. 10, pp.51-56, 2019-05-01. Japan Institute for Comprehensive Cultural Studies

バージョン :

権利関係 :

尾道学資料

写真資料

画家「小林和作」の写真資料

※本誌の特徴として、学会員がそれぞれに研究・教育・社会活動に携わる記録や資料を必要に応じて格納し、広く社会に公開して文化発展の助けにするという側面がある。荒木正見は「尾道学」の必要性を初めて唱えたものとして、手元に多くの尾道関係資料を有するし、また現在も活躍中の尾道学研究会のメンバーも貴重な資料収集に当たっている。それらの多くは現在編纂中の新規「尾道市史」のために尾道市に収納されつつあるが、中には収納されにくい資料もあるし、重なっても本誌にも残しておきたい資料もある。それらを柔軟に格納できる本誌の特徴を生かして尾道学資料を格納していく。本号のはじめは画家小林和作の写真資料である。

画家小林和作（明治 21 年(1888)～昭和 49 年(1974)）は、山口県秋穂に育った後、京都、東京を経て昭和 9 年(1934)に尾道に移住し 86 年の生涯を閉じるまで 40 年間に尾道で過ごした。

このたび小林和作のご親族から写真資料を半永久的に残したいと、荒木正見宛ご依頼があったため、本誌に掲載する。

資料としても貴重なものであり、ご親族に心より感謝申し上げます。

なお、キャプションは写真の裏面に記されているものである。（荒木正見）



左方より
 小林和作
 中少一印
 右下 少婦 鐵三助 乃

後列 中 小林和作
 前列 右 山元春彦先生
 中 竹内極厚先生
 左 松本弁太郎校長
 京都倉屋専門学校卒業生

小林和作 大妻
 (東京時代)



右 須田國太郎
 中 小林和作
 左 清水登之



（独三舎見の
 集まり）
 後列
 右より三人目
 小林和作



右 中川一政
 左 小林和作



右より

林俊衛
 長谷川昇
 柳亮
 長谷川潔
 小林和作
 木下孝則

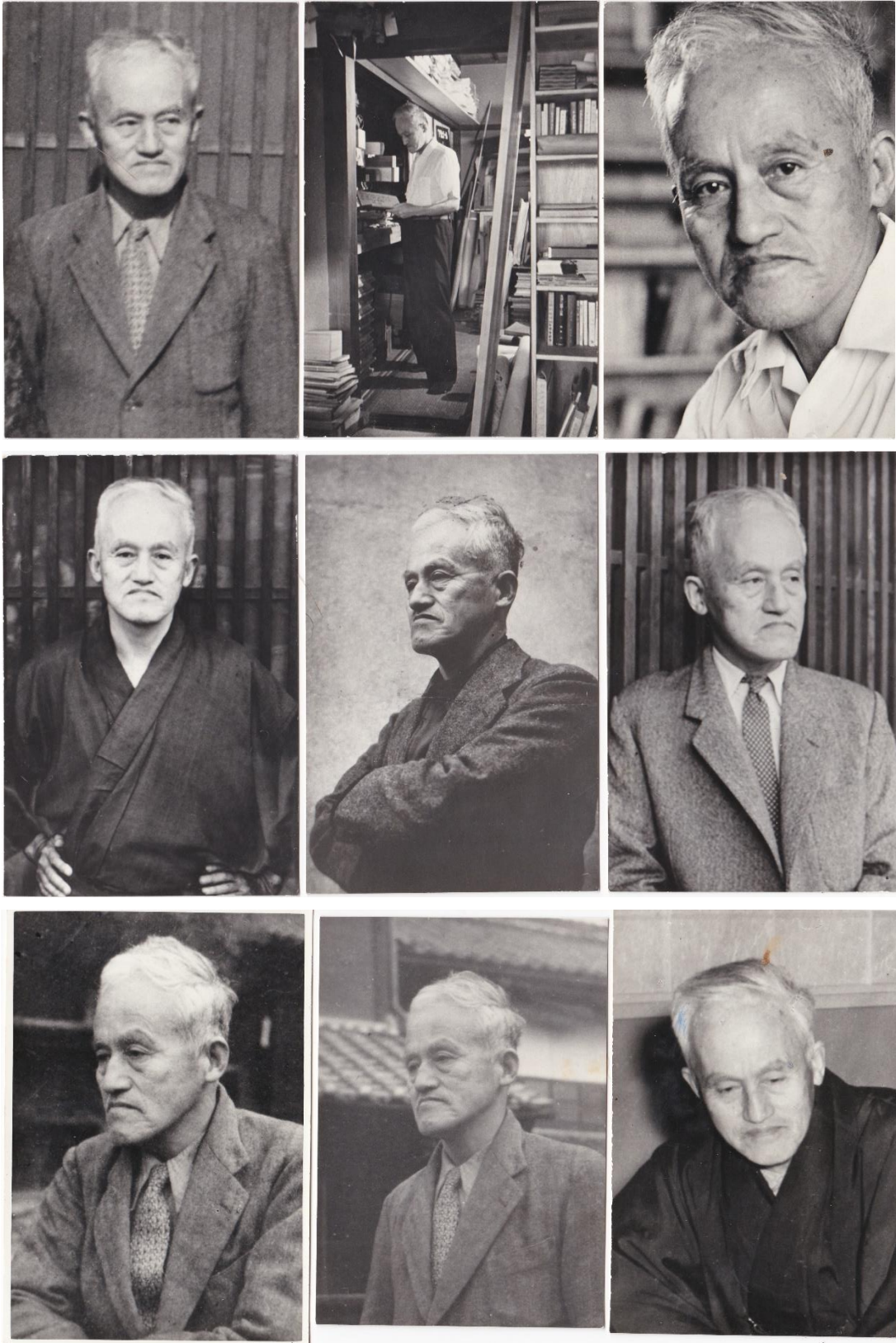
一九三八年十月
 (パリ 日本料理店にて)



小林和作
(十二歳の頃)

小林和作
(松山港にて)

以降の写真裏の説明は「小林和作」のみ。



以上